

[004] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10263>

出版情報：語文研究. 4/5, 1956-10-30. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

学会彙報

講義題目

第一期(自昭和三十一年四月
至昭和三十一年十月)

国語学概論(大学院・学部共通)

福田教授

演習 万葉集(大学院・学部共通)

福田教授

演習 国語史の諸問題(大学院のみ)

福田教授

国語学特研(大学院のみ)

福田教授

日本文法(学部のみ)

春日(和)助教授

演習 三宝耘(中巻)(大学院・学部共通)

春日(和)助教授

国語の研究法(大学院・学部共通)

春日(政)講師

日本近世文学史(大学院・学部共通)

杉浦教授

演習 西鶴の小説(大学院・学部共通)

杉浦教授

演習 芭蕉の連句『大学院・学部共通』

杉浦教授

日本近代文学(大学院のみ)

杉浦教授

講読 堤中納言物語(学部のみ)

春日(和)助教授

特講 日本文学(平安朝後期)に於ける
仏教思想

(分校) 穴山助教授

行事

一、新入生歓迎会

昭和三十年十一月十四日(日)

午後四時より於三畏閣

この度九大国文学会は十五名の新人会員を
迎へ、その歓迎会を三畏閣において催した。

一、昭和三十年度卒業論文発表会及び予餞会

昭和三十一年二月五日(日)

於法文経第一演習室

一、卒業論文発表者並びに発表題目

(大学院)

1、源名物語の研究

徳満澄雄

2、芭蕉の研究

境忠一

1、枕詞の研究

倉野紀子

2、古今和歌集の研究

江田英昭

3、古今和歌集序と文選

穴山健

4、「おくのほそ道」の波紋

白石梯三

5、凡兆の研究

上川正信

6、好色一代男における源氏物語

長崎正

7、上田秋成の研究

八田敏弘

8、南総里見八犬伝の構成

武末次生

一、予餞会 於三畏閣

一、昭和三十一年度九大国文学会総会
(昭和三十一年五月十三日(日))

法文経第七演習室

専攻学生等座談会を催し、色々有益な話をうかがった。

- 一、研究発表者並びに発表題目
- 1、敵島神社蔵 平家物語断簡をめぐって

笠 栄 治

- 2、上代における母音音節の脱落について

森 山 隆

- 3、「よね」の考

棚 町 知 弥

- 4、万葉集における「者」字の用法

「中中者」の訓をめぐって

鶴 久

- 5、風土と用字―万葉集の「湖」字について

八 木 毅

- 6、清濁の通時性

平 井 秀 文

尚、研究発表終了後、久しぶりに本学会にお見えになられた本学会顧問高木市之助先生にお話をしていた。

懇親会 総会終了後（於中島氏宅）

- 一、小島吉雄先生臨時講義及び座談会

昭和三十一年九月十一日より十七日迄、一新古今集とその系譜」といふ題目にて、阪大教授、本学会顧問小島先生の臨時講義があった。尚十三日（木）午後二時より先生を囲んで、福田、杉浦、春日三先生を始め

- 一、第六回西日本国語国文学会総会

昭和三十一年九月二十二・三日

於佐賀大学文学部

尚九大関係の発表者は左の通りである

（発表順）

第一日

- 一、平家物語成長の一性格

九大学院 笠 栄 治
文学研究科

- 一、稿本あゆみ抄における半語の位置

九大学院 佐 田 智 明
文学研究科

- 一、心中天網島試論―外題について―

福岡県立 棚 町 知 慧
博多工高

- 一、九州西南部方言における長母音について

鹿児島 上 村 孝 二
大 学

第二日

- 一、万葉集における語・告・謂・言人訓

―表記意識と用字法との関連において―
九州大学 鶴 久

第一日（二十二日）研究発表終了後、引続き公開講演会が催され、九大から、「古文学

と九州」といふ演題にて春日政治先生の講演があつた。



異動消息

○ 今井源衛先生は昭和三十一年十月一日を以て、前任の清泉女子大学から本学助教（国語学・国文学第二講座）として御来任になりました。